

事業報告書

コース	☐ 自主事業コース ☐ 協働市民提案コース ☒ 協働行政提案コース
事業名	体験型離乳食教室「まんま教室」～あかちゃんから大人まで～
団体名	子育てひろば はなっこ
担当課	倉敷市保健所 健康づくり課

1 事業の概要

事業計画書（様式第2号）の「4 計画の概要と対象者」を転記してください。

乳幼児を持つ親世代に対し、真備・倉敷市内の子育て支援拠点と連携し、体験型の簡単に作れる離乳食教室を開催し、顔の見える関係づくりと食生活の向上を目指す。大学との連携で、託児ボランティアに入ってもらふことや大学生に離乳食づくりの（調理の基本の体験）教室を開催することで若い世代に向けた食育の啓発を狙う。

2 アウトカム（成果）の達成状況

事業計画書（様式第2号）の「6 アウトカム（成果）」に対して、事業を実施する中で見えてきた成果があれば具体的に記入してください。

1 真備地区の親子のための体験型離乳食教室

- ・真備の子育て支援拠点と企画の段階から連携し、事業を実施したことで、真備の子育て支援拠点の食への関心も高まり、今後、子育てひろばはなっこや行政だけでなく、栄養改善協議会などとも連携しながら、食を切り口とした子育て支援を実施していきたいとの要望があがった。この事業が、地域での食育の輪がひろがるきっかけとなった。
- ・家族参加型の教室にしたところ、夫婦での参加も多く、母からは、「離乳食の進め方が学べた」「父に子育てのことが分かってもらえてよかった。」「父からは、「離乳食の大変さを知った。」「父同士の交流ができてよかった。」などの感想があり、家族で知識や情報を共有し、協力しながら子育てを行うことの大切さを実感する場となった。また、食を通じた交流が、子育ての仲間づくりの場として機能し、親子のより所となっていることも確認ができた。また、「教室に参加したことが、きっかけとなり、その後離乳食が順調にすすんだ。」という感想もあり、体験型離乳食教室は、分かりやすく、離乳食を進める見通しがついたことから、離乳食への不安や負担感を取り除くことができたと思われる。
- ・幼児教育学部の学生が託児ボランティアを通じ、離乳食を作る様子や親子のふれあい、食事場面を見て、離乳食の大変さや夫婦で協力して子育てをすることの大切さを学ぶと共に、「自分もおいしい離乳食を作りたい。」「自分の食生活を見直した。」などの感想もあり、食への関心が高まったと思われる。

2 倉敷地区の親子のための体験型離乳食教室

- ・7月の災害により、真備地区以外の子育て支援拠点と連携しての事業は中止したが、事業実施に向けての企画段階で、事業の目的や食の課題を共有することができ、今後の連携に向けての足がかりが作れた。

3 学生のための料理教室

- ・大学生が調理体験を通して家庭でも取り入れやすい調理の基本を学び、調理技術を習得するとともに、薄味やだし、共食の大切さを実感し、自身の食生活を考える機会となった。また、幼児教育学部の先生の参加もあり、学生と一緒に調理を行い、「食は生きる基本。」「地域との繋がりは大切であり、今後も連携していきたい。」という感想があり、今後先生から大学生への食育の広がりが期待できるとともに、大学とのつながりも深めることができた。

3 アウトプット（直接の結果）の達成状況

事業計画書（様式第 2 号）の「5 アウトプット（直接の結果）」の「指標」及び「事業実施後の数値目標」を転記し、事業実施後の達成状況を数値で記入してください。

（1）事業実施後の達成状況

指標（転記）	事業実施後の 数値目標（転記）	事業実施後の 達成状況
・体験型離乳食教室開催場所 ・体験型離乳食教室開催回数 ・保護者が受講後継続して離乳食を調理している割合 ・保護者が食への関心が高まったと思っている人の割合 ・大学生に対しての料理教室開催回数 ・大学生が受講後継続して調理している割合 ・大学生が朝食を食べている人の割合 ・反省会を含めた交流会の開催	真備地区 1 ヶ所、 倉敷地区 1 ヶ所 2 回 8 割 8 割 1 回 8 割 8 割 1 回	真備地区 1 ヶ所 災害のため倉敷地区は中止 1 回 災害により後追いアンケート未実施 災害により後追いアンケート未実施 1 回 ほぼ変化なし ほぼ変化なし 1 回

参加者が少なく、十分なデータが得られず、検証が難しかった。

（2）事業全体の達成度（自己評価）とその達成度にした理由

《達成度》

達成度については、1 から 5 の 5 段階で自己評価してください。

評価の目安は、計画通り達成できた場合を 100 とし、100 以上が「5」、80～99 が「4」、60～79 が「3」、40～59 が「2」、0～39 が「1」としてください。

達成度	その達成度にした理由
4	7 月の災害で開催できなかったことはあるが、体験型離乳食教室は乳幼児を持つ（学生を含む若い世代）に有効であると実感できたこと。 私たちが活動できない今も、開催を待つ声も多く食（特に子どもの）への関心はあったと実感できたため。 また、被災後も活動をできるだけの準備をし開催できたこと。

4 事業の課題と改善策

事業を実施する中で見えてきた課題と、今後の改善策を記入してください。

1 真備地区の親子のための体験型離乳食教室

・父親の育児参加や仲間づくりを促すために家族参加型の教室としたが、単発の事業では、父親が打ち解けるまでに時間がかかるため、シリーズ企画で行うとより交流が深まるのではないかとされる。また、父同士の交流の場に不慣れな父が多いため、気軽に父子で体験できるような企画とするなどの検討が必要である。

2 倉敷地区の親子のための体験型離乳食教室

・事業の実施はできなかったが、企画の段階でつながりができたため、つながりを活かせる事業の検討が必要である。

3 学生のための料理教室

・災害により開催時期がずれてしまったため、学生の実習や帰省と時期が重なり、参加者が少なかった。今後も、事業を通してできたくらしき作陽大学との連携やつながりを大切に、事業の形が変わっても、つながりを継続する工夫が必要である。

4 子育て支援拠点との連携

・反省会でそれぞれの拠点スタッフが感じている食の悩みを挙げてもらったが、離乳食についての相談は多く、個別性が高いため、頭を悩ませていることが分かった。今後も、地域子育て支援拠点や行政と連携し、お互いに課題を共有したり、情報交換しながら、地域の親子を支援していくことが大切である。

5 事業実施記録

実施した事業の詳細を記入してください。

実施内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の人数
真備地区の親子のための体験型離乳食教室	6月17日(日) 9:30～12:00	まびいきいきプラザ	スタッフ9名 地域子育て支援拠点2名 大学生7名 行政5名	参加者14組 (40名)
学生のための料理教室 (くらしき作陽大学との連携事業)	11月4日(日) 10:00～12:35	くらしき健康福祉プラザ	スタッフ9名 行政4名	参加者9名 大学生5名 先生2名 大学生の家族2名
真備地区の親子のための体験型離乳食教室振り返り(お茶会)	2月5日(火) 10:00～12:30	花田助産院	スタッフ6名 地域子育て支援拠点1名 行政2名	参加者5組
お楽しみ交流会(反省会)	2月17日(日) 10:00～12:00	くらしき健康福祉プラザ	スタッフ5名 行政5名	地域子育て支援拠点4名 大学生1名

収支精算書

1 収入の部

科目	予算額(円) 1	収入額(円)	主な収入の内訳
受益者負担	21,000	8,400	
会費からの繰入	0	19,965	
その他	0	0	
市補助金	180,000	110,000	
収入合計	201,000	138,365	(支出合計と一致)

2 支出の部

科目	予算額(円) 1	支出額(円)	主な支出の内訳
人件費(会員) 2	12,000	8,100	
交通費(会員) 2	4,000	2,947	
人件費(アルバイト等)	0	0	
謝金(講師等)	0	0	
旅費交通費(講師等)	0	0	
消耗品費	65,000	56,714	
印刷製本費	61,000	26,672	
通信運搬費	11,000	2,800	
保険料	7,000	2,240	
使用料・賃借料	20,000	11,000	
外注費・委託費	0	0	
対象経費計	180,000	110,473	
食糧費	5,000	2,614	
人件費	16,000	25,278	
その他	0	0	
対象外経費計	21,000	27,892	
支出合計	201,000	138,365	(収入合計と一致)

1：予算額は申し込み時に提出した様式第3号の内容を転記してください。

2：会員に支払う人件費と交通費の合算額は、対象経費計の1割を上限とします。